

令和3年度第1回 広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城の展示整備に関する懇談会

2 開催日時

令和3年8月25日（水）14:00～16:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎2階 講堂

4 出席委員等

(1) 委員

秋山伸隆委員（座長）、城市真理子委員、西村晃委員、上田宗冨委員、金城一國齋委員

(2) オブザーバー

広島城高野館長

(3) 事務局

広島市市民局 市民局長、広島城活性化担当課長、株式会社丹青社ほか

5 議題（公開）

(1) 広島城の展示整備に関する懇談会開催要綱等について

(2) 座長の選任について

(3) 懇談会の進め方について

(4) 広島城の今後の展示のあり方について

6 傍聴人の人数

2人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城の展示整備に関する懇談会開催要綱【資料1】
- ・広島城の展示整備に関する懇談会の公開に関する取扱要領【資料2】
- ・懇談会の進め方（案）【資料3】
- ・広島城の今後の展示のあり方について【資料4】
- ・広島城基本構想【参考資料1】
- ・広島城三の丸整備基本計画【参考資料2】

8 発言要旨

(1) 広島城の展示整備に関する懇談会開催要綱等について

－ 事務局から資料1、資料2を説明 －

(2) 座長の選任について

(事務局)

・懇談会開催要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により座長を1人置くこととしている。御意見はあるか。

(城市委員)

・座長には秋山委員が適任だと思うがどうか。

(事務局)

・秋山委員を座長にとの御意見があったがどうか。

－ 拍手 －

(事務局)

・それでは、秋山委員に座長をお願いしたい。秋山座長に一言挨拶をお願いする。

(秋山座長)

・私の専門は戦国時代の毛利氏で広島城築城までが守備範囲のため、築城後については不案内で座長が務まるのか心もとないが、指名を頂いたので座長を務めさせていただきたい。

(事務局)

・ここからの議事進行は、秋山座長をお願いする。

(3) 懇談会の進め方について

(秋山座長)

・議事(3)の「懇談会の進め方について」を議題としたい。

－ 事務局から資料3を説明 －

(秋山座長)

・今の事務局の説明に対し、御意見・御質問があればお願いしたい。

－ 質疑なし －

・それでは、本件については案のとおり進めさせていただく。

(4) 広島城の今後の展示のあり方について

(秋山座長)

・次に議事(4)「広島城の今後の展示のあり方について」を議題とする。議事(4)の資料はボリュームがあるため、前半と後半に分けて説明を受けたのち、まとめて意見交換を行う。

－ 事務局から資料4前半部分、「現行の指定管理業務の概要」までを説明 －

(秋山座長)

- ・前半部分の説明に対し、御質問があればお願いしたい。
 - － 質疑なし －
- ・それでは、続けて事務局から後半部分の説明をお願いします。
 - － 事務局から資料4後半部分、参考事例を説明 －

(秋山座長)

- ・これから議論しなければならないこととして、テーマの設定、展示の方針、施設の機能等が挙げられていたが、まずは今の説明に対する質問や意見から伺い、その後三つの議題について順番に議論できればと思う。資料4の説明に対して御意見を頂きたい。

(西村委員)

- ・広島城来館者へのアンケートにおいて、意見・要望にはどのようなものがあるか。

(広島城館長)

- ・広島城の第4層にアンケート用紙を設置し、主に企画展観覧者に対してアンケートを取っている。常設展、企画展共におおむね好評であり、半数以上の来館者が江戸時代の広島城郭について理解が得られたと回答している。企画展についても良い反応を頂いている。
- ・昨今の歴史ブームの影響で来館者は全国から訪れており、アンケート回答者の興味分野も歴史、城郭、戦国武将、刀剣等様々な分野にわたっている。

(西村委員)

- ・城郭マニアの方も多くいらっしゃると思うが、広島城と他の城郭を比較した意見等はあるか。

(広島城館長)

- ・自由記述欄を設けているが、確認する限りはそのような意見はみられない。

(上田委員)

- ・全体のテーマはこれでよいのではないかと思う。
- ・新たに設置する展示収蔵施設の名称をどうするかが重要。
- ・江戸後期の三の丸の詳細図等も用いながら、広島城全体における三の丸の位置付けや三の丸全体の概要を分かりやすく伝えることが必要なのではないか。
- ・現在天守閣で展示している武具・甲冑（かっちゅう）や刀剣の展示には広島にゆかりのないものもあるが、それらは一定の役割を終えたのではないか。新施設で展示を行うに当たっては、広島にゆかりのあるものを集め、なぜそれを展示するのか、どういった由来のあるものかを伝えた方がよい。
- ・二の丸復元建物は空調設備等の関係上、古い資料の展示には適していない。資料展示を行う

のであれば、近現代の資料に絞った方がよい。三の丸の展示収蔵施設との位置付けの明確化も重要である。

- ・茶会、文化イベントについては引き続き実施すればよい。
- ・三の丸の展示収蔵施設は現在二階建てか三階建てかを検討している段階かと思うが、それぞれの程度の展示・収蔵面積が確保できるのかを知りたい。収蔵庫はすぐに一杯になってしまうため、将来的な収蔵量の増加を見据えた整備を行う必要がある。
- ・本丸のテーマについては資料に書かれていたとおриだと思う。しかし、本丸のトイレはひどい状態であるため、三の丸の整備を待たず再整備する必要があるのではないか。
- ・広島県立美術館の基本構想委員を務めたが、その後、指定管理者制度が余りうまく機能していないと聞いている。これは全国どこの公立美術館も抱えている課題である様だ。県の職員と指定管理者が同じ業務を行うのは難しく、特に学芸業務には相当な苦労があるようだ。広島県立美術館は運営全般が指定管理者で、学芸業務が県職員という分担だったかと思うが、この役割分担が非常に重要になる。今後、広島城の運営には広島市と広島市文化財団に加えて更に指定管理者が入ることになるのか。

(事務局)

- ・今後は広島城エリア全体を管理する民間事業者が指定管理者として運営を行うが、学芸業務は別途、個別委託を行う予定である。

(上田委員)

- ・その分担はなかなかうまくいかない。両者がぎくしゃくしたまま運営する館が多いため、密な連携を行わないと苦勞することになる。

(事務局)

- ・今回の懇談会では施設名称案を提示していないが、今後何らかの形で示していく必要があると考えている。今後の施設のあり方を踏まえた名称にしていきたいと考えており、今後改めて提案させていただく。
- ・三の丸エリアは面積的、立地的な制約が多い。景観の問題もあるため、二階建とする可能性も考えられる。収蔵庫はしっかりとしたものと考えているが、限られた面積の中に展示、収集保存、教育普及、観光案内所等の機能を盛り込むためには、機能のバランスを考えて面積配分を決める必要がある。今回頂いた御意見を踏まえ、次回以降案を提示させていただきたい。
- ・運営については検討すべき事項が多いと考えている。事前に役割分担を詳細に決めた上で、連携を密にできる方策を検討したいと考えている。

(広島城館長)

- ・第3層に展示している武具・甲冑は一定の役割を終えたのではないかという御指摘があったが、新しい展示施設においてどのような位置付けで展示を行うのかは今後検討していきたい。その他、絵画等も含めた資料もなるべく多く公開し、広く文化を紹介する展示にできればと考えている。
- ・二の丸復元建物は元々展示室として整備された建物ではないため、資料展示を行うには無理がある環境だった。三の丸に展示収蔵施設が整備されるため、貴重な展示品は三の丸で展示していく方向性となる。

(上田委員)

- ・現代美術は二の丸復元建物で展示すると映えるのではないか。百貨店のギャラリー等で展示するよりも、はるかに美術品が魅力的に見える空間であると考えている。

(広島城館長)

- ・まだ検討中の段階だが、閉館中の広島市現代美術館から、美術館の所蔵作品を二の丸復元建物で展示できないかという話もある。

(金城一國齋委員)

- ・二の丸復元建物の「観月と工芸」という展覧会で実際に作品を展示したが、ふだんガラスケースで展示するような作品を平櫓（やぐら）に置いて月の明かりで鑑賞するという見せ方は、我々作家にとっても新鮮な経験だった。作った道具をいかに空間の中で生かすか、空間の中でどう見せるかはものづくりにおいて非常に重要であり、広島城の各エリアをどう活用するかについても様々な知恵を生かして考えていくことが必要だと思う。
- ・天守閣にある収蔵品を適切な環境で保管できる施設の整備を第一に検討する必要があるが、場所的な制約があるため、どう実現するかが知恵の絞りどころだと思う。
- ・参考資料として施設事例の提示があったが、これからの時代、ガラスケースを中心とした資料展示ではもうリピーターが確保できない。実物資料を見せるのは重要だが、これからはバーチャルも非常に重要。実際に城を訪れるだけでなく、映像や音等を通じてバーチャルで歴史を体感できるようにすることがこれからの歴史博物館には必要なのではないか。
- ・博物館だけではなく様々な施設を見て研究して、広島にしかない施設を作ってもらいたい。

(秋山座長)

- ・上田委員が本丸のトイレについて指摘されていたが、トイレ整備の必要性については是非緑政課に伝えてもらいたい。観光地としてふさわしいトイレにするべきだと思う。
- ・民間事業者との役割分担について、私も上田委員と同様の思いを抱いている。同じ業務の分担は困難ではないかと思うため、慎重に検討していただきたい。

(城市委員)

- ・学芸業務担当者の継続的な研究調査活動を保証することが非常に重要ではないかと考えている。資料4の36ページ「今後の方向性」における実施方針について「資料の収集保存、展示」と記述があるが、博物館学においては「調査研究、教育普及」も代表的な業務であるため、方針には必ず加えていただきたい。
- ・国指定重要文化財も展示できる施設を目指す説明があったが、国指定重要文化財の借用に当たっては国に対して届出を出す必要があり、しかるべき条件が求められる。その際、温湿度管理等の条件だけではなく学芸担当者の専門性も非常に重要になるため、専門性を持つ学芸担当者を雇用し、担当者の調査研究活動を支えることを重視していただきたいと考えている。
- ・展示事業に重きを置いている印象を受けるが、調査研究を行い、その成果として発信する側がいかに仕事をしやすいかという視点を持って計画策定を進めていただきたい。全国的に博物館収蔵品が流失している現状がある中で、いずれは国宝となる可能性のある浅野家や毛利

家に関わる文化財を購入したり寄贈を受けたりできる体制を整えるためには、専門性のある学芸員の力が必要になる。

(事務局)

- ・収集保存、調査研究、展示、教育普及、交流サービスの五つの機能を今回の施設に盛り込んでいく予定。展示の根幹として調査研究の充実が重要であると認識しているため、調査研究の環境についても現状から改善を図っていきたいと考えている。資料においても調査研究の重要性はうたっているつもりであるが、今後更に補強していきたい。

(西村委員)

- ・広島県立の歴史博物館としては広島県立歴史博物館が福山市、広島県立歴史民俗資料館が三次市にそれぞれあるが、広島市内に県立施設はなく、広島城が最も大きな歴史系の展示施設になるため、今回の整備には大変期待している。
- ・私の勤務する県立文書館にも資料を受け入れてほしいとの話があるが、断らざるを得ない状態になっている。貴重な美術品や資料が流出しているという話を聞くので、そうした資料を受け入れられる施設として整備してもらいたい。三の丸に制約があるのであれば別の場所に収蔵施設を整備することも検討していただきたい。
- ・広島城三の丸は本来もっと広いエリアであり、展示施設を整備しようとしているのは三の丸の一角である。広島城や三の丸の全体像が分かるような展示を検討していただきたい。
- ・人があってこそその施設であるため、専門性を持つ人材の雇用についても将来的に取り組んでいただきたい。
- ・被爆以前の歴史、特に江戸時代の歴史が市民にとって遠い存在になっている。学校教育とも連携して、市民、県民が江戸時代の広島を思い浮かべられるような施設にできるとよいのではないか。

(事務局)

- ・近世、特に江戸時代の広島を市民が余り知っていないことは我々も課題として認識している。これまでは原爆から広島を語り始めることが多かったが、それ以前のまちづくりがあってこそその広島の街であるため、広島城をきっかけとして江戸時代の広島の姿に触れられる機会を増やしていきたいと考えている。

(広島城館長)

- ・広島城は現在の内堀だけでなく外堀まで含めると、かなりの面積を持つ日本有数の平城の一つであるということは現在の天守閣でも紹介しているが、今後は更に三の丸も含めた広島城の城郭全体について紹介できればと考えている。せっかく三の丸に新たに整備する施設なので、三の丸という場所の特性も踏まえた展示ができればと思う。
- ・広島城の学芸員は日々調査研究、資料収集を行い、企画展開催や図録作成を研究成果の一つのゴールとしているが、新施設の整備を契機に、より専門性を深めていきたいと考えている。

(上田委員)

- ・金城委員が、これからはバーチャルも展示に取り入れていかなければいけないとおっしゃっていたが、今回説明のあった事例に加えて参考になる施設があれば知りたい。

- ・名古屋城は本丸周辺に美術館を始めとする様々な施設を整備している。名古屋城の展示を含めた整備状況を参考事例として知りたい。その他、熊本県立美術館、石川県立博物館、八代市立博物館と細川家、前田家、松井家との展示等の連携のあり方についても調査してもらいたい。

(秋山座長)

- ・近年整備された施設でどのような展示が行われているのかを、視察等を通じて情報収集してほしい。

(金城一國齋委員)

- ・参考事例として掲載されている関ヶ原古戦場記念館はメディアでも注目されているが、シアター等を通じて戦国時代にタイムスリップするという見せ方がうまいと感じている。同様のことを広島城でも行うとして、何がメインテーマとなるのか、何を広島城の魅力として伝えるか今後検討が必要だと思う。
- ・広島城の特色は日本一の平城であることだと思う。しかしそれを広島市民は余り知らないため、文化財を見せるだけではなく、城ができるまでの経緯や平城としての役割、なぜ広島城が日本一の平城なのかといった話を見せていくことができればよいのではないかと。他にも、広島城の城下町の成り立ちをバーチャル化して見せていけると面白いのではないかと。
- ・江戸時代後期、広島には漆に携わる店が百数十軒あり、漆を精製したり売買したりしていた。江戸時代の絵図にはそういった様子も残されている。そうした資料も映像等で活用しながら、広島城の街の変化を体験できるような展示ができると面白いのではないかと。

(事務局)

- ・参考事例の情報収集について意見が出たが、今後進めていきたいと考えている。

(秋山座長)

- ・新施設にどのような収蔵庫を設けるかが今後かなり重要な議論になってくると思うため、今後参考事例の提供に当たっては各施設の収蔵面積、延床面積も合わせて示してほしい。
- ・新施設に必要な機能を盛り込むに当たり、狭い敷地に二階建ての施設で十分な面積が確保できるのかが不安である。必要機能と面積の考え方について、次回の懇談会で説明をお願いしたい。
- ・現在天守閣にある資料を移動して展示するだけでは新施設に人を呼ぶことは難しいのではないかと。広島ゆかりの資料を開館までに新たに収集するための方針についても検討し、案を提示していただきたい。
- ・資料4の39ページに、テーマ②として「重層的な広島城の歴史」が挙げられているが、歴史はそもそも重層的なものであるため、あえて重層的と付ける必要はないのではないかと。説明を聞かなければ理解しづらい表現ではないかと感じるため、次回までに検討していただきたい。
- ・最後に私からいくつか次回に向けた検討をお願いをしたが、事務局から連絡事項があればお願いしたい。

(事務局)

- ・本日頂いた御意見を参考に、今後、基本計画の作成に取り組んでいきたい。
- ・今後の懇談会については今年度中に2回、10月下旬頃、12月下旬頃に開催する予定であるが、

必要に応じて委員の皆様個別に相談させていただくこともあると思うので、御指導・御協力のほどをよろしくお願いしたい。本日はありがとうございました。

(秋山座長)

- ・それでは、これで令和3年度第1回広島城の展示整備に関する懇談会を終了する。ありがとうございました。